

# 民間伝承

俗民と族民 NO. 321



鎌倉の銭洗い弁天で(四五頁参照)

昭和三十一年一月三十一日国鉄特別扱承認雑誌 第三一七八号  
昭和三十七年四月二十七日 第三種郵便物認可  
昭和五十六年八月一日印刷 昭和五十六年八月五日発行

第四十五卷 第二号 編集発行人 民間伝承誌友会  
印刷 船田印刷株式会社

戸田謙介

発行所 166 東京都杉並区阿佐谷南一丁目四〇番五号  
電話東京 (311) 五八九四番 振替東京 〇二五四四四番  
六人社 IBM 8415

## 8月号

- 「民俗学辞典」の執筆者一覧(上) 井之口章次
- 本誌との関係に寄せて(三) 柳田国男と和辻哲郎 雨宮庸蔵
- A・H・サヴェジ・ランドア著 独り蝦夷地をゆく(付) 前田祐子訳
- 奥羽山系における野鬼狩り 天野 武
- 原始小説 アダムと蛇 (出) V・フィッシャー
- 文化財ニュース(五〇〇) 田原 久
- フランスの鳥・日本の鳥(白) 中平 解
- ☆誌友通信ア・ラ・カルト
- ☆受贈書誌紹介
- ☆誌友通信

定価 550円

Vol. 45 No. 2 August 1981

Minkan Densyô : Edited by the Folklorists' Club of Japan.

C/O Roku-Nin-Sha, No. 40-5, Asagaya-minami-1-chome. Suginami-ku, Tokyo, Japan

復刻版  
**日本民俗学会報**  
全四冊

日本民俗学会編/昭和33年7月からの「会報」を42号まで収録。幅広く精細な研究報告を掲載。時世の変遷により、今日調査不可能となったもの等、研究に不可欠の資料。  
 収録内容  
 第一冊 1〜10号 昭和33年7月〜34年11月  
 第二冊 11〜22号 昭和35年2月〜36年12月  
 第三冊 23〜31号 昭和37年3月〜38年12月  
 第四冊 32〜42号 昭和39年2月〜40年11月  
 ●A5判・上製・函入/総二二八頁

復刻版  
**日本民俗学**  
全四冊

日本民俗学会編/「民間伝承」を受けて創刊、民俗研究者の研鑽の場として、論文・調査内容は全国各地に及ぶ貴重資料を収録する。  
 ●A5判・上製・函入・総三五六頁  
 ●全四冊 揃価三八〇〇円

戦後版  
**高志路**  
全8冊

新潟県民俗学会編 雪国特有の細やかな観察力を遺憾なく發揮し、特異な民俗風習を丹念に踏査採録。民俗学研究上、貴重な資料である。戦後版・復刊第一号の一七号から二〇六号まで、及び小林存先生追悼号の計九一冊を収録。  
 ●A5判・上製・函入・総三五六頁  
 ●全8冊 揃価四五九〇円

復刻版  
**民俗**  
1号  
80号

相模民俗学会編/都市発展の陰に埋もれゆく神奈川の民俗を丹念に採録。付・総索引  
 ●B5判・上製・函入 予価二二〇〇〇円

**傳承**  
全2巻 創刊号  
第七号

山陰民俗学会編/古伝承・習俗の宝庫、山陰の民俗をわかりやすく解説した名篇。  
 ●A5判・上製 全2冊揃価一五〇〇〇円

**三州風俗圖繪**  
奥郡 松下石人/明治の渥美半島の習俗を年中行事・衣食住に分け平易に解説。三〇〇〇円

**三州産育風俗圖繪**  
奥郡 松下石人/明治中期の渥美半島一帯の産育の習俗を挿絵入りでまとめた。二〇〇〇〇円

**産屋の民俗**  
谷川健一・西山やよい/若狭湾沿岸の産育習俗を中心に総合的に考究。五八〇〇円

小社の書籍は注文制です 書店にお申し込み下さい 国書刊行会 東京都豊島区巢鴨3-5-18 電話 03(917)8287

人間がニワトリを飼い出したのはきわめて古く加茂博士の『家畜文化史』(昭和三年、改造社)によれば「南アジアの原産で……『新約マルコ伝』一三―三五」ではじめて文献に出て来る。ギリシヤ人はペルシヤ人から、ペルシヤ戦争後に手に入れた……支那における鶏の家畜化は西紀前一四〇〇年の古い時代に遡っている。……印度では西紀前一七〇〇年頃にアリアン人がガンジス河に到着した時には既にそこでは知られていた……という。

中国の最も古い記載は『詩経』の「女曰鶏鳴」に

女曰鶏鳴 女はとりが啼くといひ  
士曰昧旦 男はまだ夜が明けぬと答えた。  
子輿視夜 あなたよ起きて夜色を見なされ  
明星有爛 キラキラとあけの明星。  
将翱将翔 さあひと走りかけまわり  
弋鳧与雁 カモにガンなど射て来なされ。

付

大言加之 矢が当たたら  
与子宜之 それを看にするわ。  
宜言飲酒 酒くみかわし  
与子偕老 あなたと偕に老いるの。  
琴瑟在御 琴と瑟とがかたえにあり  
莫不静好 問わず音色も美くしい。  
知子之来之 あなたが来るとわかったら  
親戚以贈之 腰のおび玉あげましょう。  
知子之順之 あなたがやさしうなさったら  
雜佩以問之 腰のおび玉贈りましょう。  
知子之好之 あなたがいとしいなさるなら  
雜紉以報之 腰のおび玉お返しに。  
『詩経』のうち「国風」が古く西紀前八世紀のものである。ニワトリはこのころたしかに飼われていたのである。また元日は鶏の日で、この日これを殺してはならないということになっていく。その前の『書経』の「牧誓」には殷の佩王が牝鶏すなわち姐己のことをきいて国を亡ぼしたと書いてある。女

名、この後も栄える。次の辛酉、延徳三年も幕府は改元を奏請しない。これは徳川時代もそうであったが、五代將軍綱吉は始めて九月二十九日に天和と改元する。もともと前年に襲任したばかりだから、新任祝ともとれるが、天和という年号にかつぎが見られ、將軍の襲任で改元などはもつての外である。ただし八代將軍吉宗も元文を二月二十七日寛保と改める。十一代將軍家齊は寛政一三年二月五日享

名、この後も栄える。次の辛酉、延徳三年も幕府は改元を奏請しない。これは徳川時代もそうであったが、五代將軍綱吉は始めて九月二十九日に天和と改元する。もともと前年に襲任したばかりだから、新任祝ともとれるが、天和という年号にかつぎが見られ、將軍の襲任で改元などはもつての外である。ただし八代將軍吉宗も元文を二月二十七日寛保と改める。十一代將軍家齊は寛政一三年二月五日享

受贈書誌紹介

横須賀市博物館研究報告

(人文科学 第二四号 一九八〇年十二月)

この報告は本誌23号(一九七九)につづくもので、本館所蔵の国指定重要有形民俗文化財「三浦半島漁撈用具コレクション」の図版目録(第5集)の性格と役割をはたすため、継続的に編まれたものである。田辺 悟

発行所 横須賀市深田台九五 横須賀市博物館刊

奥羽古キリシタン探訪

司 東 真 雄 著

後藤寿庵の軌跡

「石母田文書」をはじめ多くの新資料をもとに著者独自の研究により、伊達政宗の重臣

性優位の現代にはあてはまらないと思う。

今年辛酉カノトリの年であるが、辛酉革命説は日本でも採用され、『日本書紀』では神武天皇即位の西紀前六六〇年は辛酉の年にあてられている。但し干支を日に用いることは古いが、年に用いるのは漢の文帝の六年(前一六四)すなわち淮南王劉安が「淮南子」を書いた年からそう遠くない時代の発想だと、大東文化大学教授小島政雄氏の発見である。辛酉革命説はもとよりそのあとのことである。今年に従って革命は行なわれないうといえる。

しかし日本ではずっと辛酉革命説が信じられ、光仁天皇即位の年はあたかもその崩御に当たったが、天応というめでたい年号をつけられている。翌年が桓武天皇の即位で、平安朝となるが、醍醐天皇はこの年昌泰から延喜と改元する。縁起をかついだといえは万才となる。次の辛酉は村上天皇の天徳四年であるが二月十六日に応和と改元する。また次は後一條天皇の寛仁五年であるが、二月二日には治安と改元する。関白頼通はじめ天文博士の説を聞き入れたのである。次の辛酉は西暦一〇八一年で白河天皇の承暦五年だが、二月一〇

和と改元、孝明天皇の代となると漸く天皇の威権が回復したが、万延はただ一年で文久と改元がある。次は明治天皇で一世一元と定まったので、大正一〇年(一九二一年)にはもとよりない。  
思えば年号を用いるのは世界中で日本だけである。わたしなど一九一一年生れを明治四四年といひ直すのがつらい。皆さんはどうか。(成城大学教授 中国文学 杉並区阿佐谷南一丁目四〇―八)

でありローマ法王庁や宣教師から高く評価されていた東北の代表的キリシタンで、史実上不明であった後藤寿庵の全容を解明!

定価一四〇〇円 千二百五〇円

発行所 新宿区津久戸町一四 (株) 八重岳書房

芸能

六月号目次 (第二十三巻第六号)

巻頭言「日本口承文芸学会五十周年大会」:  
本田安次 悲劇歌謡の誕生六―塚崎進 折口  
信夫の世界(54)―文・中村浩 写真・芳賀日  
出男 系統別歌舞伎戯曲解題(2)―渥美清太  
郎 書評―桜井勤・羽田昶・戸板康二

定価四〇〇円 千五百〇円 一九九分四八〇〇円

発行所 世田谷区羽根木一―二四一八 芸能学会刊

日永保と改元する。次は鳥羽天皇の保延七年で、七月一〇日には永治と改元する。鳥羽天皇は謡曲「殺生石」によれば三國伝来の妖狐の化身である玉藻の前にはかされたことになっているのは周知の通りである。次は土御門天皇の正治三年だが、上皇後鳥羽も同意して二月一三日には建仁と改元する。次は後深草天皇の文応二年であるが、二月三〇日には弘長と改元し、後醍醐天皇の代となると新進気鋭のはずの英天子も元応三年を元亨と二月二三日に改元その甲斐もなく、世は南北朝時代となる。南朝は長慶天皇、北朝は後醍醐天皇だがともに弘和、永徳と改元し、日が南朝は二月一〇日、北朝は二月二四日と少しちがう。こうして見て来ると大体に陽暦二月すなわち陰暦の元日が改元となっていると思うが、数字や天文にうといわたしは自信がないので、識者の御示教を待つ。

南朝が亡び鎌倉時代となると將軍足利義教(後花園天皇)は改元をしなかった罰が当たったわけでもなく政権をもちつづける。但しこの年に筑前で大内盛見が謀反して敗北したのは辛亥革命説によったのかも知れないとは、わたしの創説である。大内氏は中国の大大

生存後記 (戸田)

生存後記

戸田謙介

○今さら、どんなに反省してみたり、心を入れかえるなんぞと繰り返してみたところで、取り返えし得ない怠惰をかきねて来てしまつて、すでに老筆の域に足を踏み込んでしまったのだから、もうどんなにがあがいてみても、あと幾冊を世に送り出せるか、甚だ心細い限りである。

○だが、まだ呆けは極まったと云つても、たしかに生存だけはつづけており、何んとか有終の美とまでは参らずとも、若干の身辺整理は試みつつあるのだから、やはりそれなりの猪突を試みてみるよりほかはないらしい。

○そこで今日までの永い間、自分はこの学の修めようとせず、門前小僧を好いことに、イージイなぞしてまた勝手わが得な編集をつづけて来たのにも拘らず、ずっと永いこと購読をつづけて来て下さつ

た誌友の諸兄姉に対して、甚深の感謝を開陳すると共に、最後のお願いを申し述べたい。

○つまり、これからは精々手紙を書いて、それぞれの向きへ厚かましい玉稿の惠送を仰いでみる心組ですから、何卒その折にはそのお願いを聴き届けて頂きたいものだ

くらしと化学をむすぶ



東京都中央区日本橋3-7-20 ティックビル TEL(03)272-4511

損害保険なら安田火災の代理店へどうぞ

米 安田火災海上

安田火災の代理店は全国各地にあります

ご家族への責任の重いあなたに

オーダー設計の保険

安田生命

●本社—東京・新宿駅西口正面

と懇願いたす次第です。やはり、何らかの形で、社会に貢献する興味を盛った記事内容が本誌の生命だと信じるからであり、これこそが有終の美の内容だと思ふからであります。

○それについても、誌友諸兄姉のご自愛ご自重を祈らねばなりません。まい。永生きも芸のうちとは言えないまでも、生命あつての物種とは言えること、この世にはいろいろな天変地異もあり、また社会の風潮は必ずしも、わが意に沿うものばかりとは限らず、否、むしろその反対のみ多く、決して住み好い今生とは申し兼ねるからです。

誌代領収

昭和五十六年三月六日より昭和五十六年七月二十二日まで振替東京〇一一五四四番 民間伝承にお払込みに係るもの(敬称略)

○金貳千円：村上昭三 大島建彦

保坂芳春 高岡功 小瀬洋喜

篠田健三 小林文夫 門脇松次郎

名取和夫 森口多里 横山孝次郎

橋本鉄男 村上俊彦 松井恵美

山路峯男 鈴木正崇 山田政信

○金壹千円：加納康嗣 安間清木下忠 新藤久人

○金伍千円：三瓶源作 大岩勝守

金子兼吉 東北歴史資料館振興会 新倉博

○金参千円：後藤淑 佐伯安一

坪井洋文 米津為市郎 平野文明

今関六也 山田裕世 松本保千代

小国清 細川頼重 芳賀日出男

鈴木光志 関口富治 加藤東治郎 朝日奈威夫

○金壹万円：曾田長宗 坂井壹郎

平井達子

○金四千元：大森義憲 西村公一

○金九千参百元：米田実

○金壹千参百伍拾円：妹尾健

○金壹千貳百円：佐々木不二雄

○金貳千四百円：小林一麩

○金参千八百伍拾円：小国清

○金参千七百伍拾円：山田健

○金貳千壹百円：学校法人桃山学院

○金壹千伍百円：加藤参郎

☆振替に依らざるもの

○金貳千円：田内好子 中西敬二郎

上村角兵衛 田中克己

○金伍千円：花島好一 鈴木松

○金七千円：荒尾芳子

○金壹千円：浅沼友一 田内好子

○金参千円：岡本昌己 市原玲子

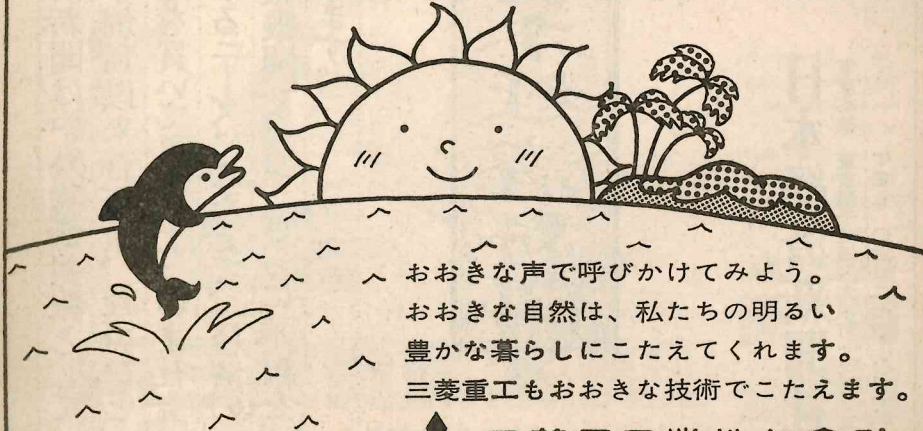
○金伍百伍拾円：稲留勝治

○金壹万円：加藤長 出田秀明

以上

技術で支える豊かな社会

大地、大海、大空。



おおきな声で呼びかけてみよう。おおきな自然は、私たちの明るい豊かな暮らしにこたえてくれます。三菱重工もおおきな技術でこたえます。

三菱重工業株式会社